



ウェルビー

2017年1月 第29号

■ 新年のごあいさつ

～連載～

■ 「教えて！認定看護師さん」

■ 乳がんいのちプロジェクト市民公開講座開催報告

「inochi 大切な人の『想い』とともに・・・」

■ 緩和ケア病棟見学会開催報告

「今日を素晴らしく生きる」

■ 医療安全推進週間開催報告

■ 新任医師の紹介

～連載～

■ 地域連携室便り 地域の架け橋



3階東病棟



1階東病棟



地域ボランティアと作る交流広場サークルKIWA

当院でクリスマス&忘年会を開催しました。
スタッフもサンタ仕様が盛り上げ、楽しい時間を過ごしました。



外科・肛門外科

診察日：毎週火・金曜日

担当医師：松田泰次 医師

疼痛緩和内科 (緩和ケア外来)

診察日：毎週月曜日

担当医師：廣岡慎治 医師

診療はじめました

お問合せ・ご予約

紀和クリニック受付までお気軽にお声かけください。

TEL. 0736-34-1255

新年のごあいさつ

新年おめでとうございます

紀和病院は昨年に療養病床を増やして、280床の病院となりました。急性期から回復期慢性期まで幅広く見ることが出来るようになり、何より高齢者の病態に合わせた治療リハビリを自前で持つ体制が出来ました。また紀和グループとして年明けから、特別養護老人ホーム「やまぼうし」がかつらぎ町で活動を開始しました。

2025年に向けて、少子超高齢化が進む中で、高齢者医療介護がますます必要となってくる中であつて、紀和病院は最大限そのような地域の状況に答えるべく体制を整えています。

ところで、世界に目を向けてみると、中東を中心とした国情の不安、テロの日常化があり、何事も代えがたいはずの命がいとも簡単に失われていく現状があります。またヨーロッパ、そしてアメリカでも、これまでのグローバルイズムから一転して、各国に保護



主義的な動き、相互協調を否定するような動きが見て取れます。私たちが時間軸で少子超高齢化の変化の渦にどう対応していくかに懸命になっているとき、世界は空間軸での大きな変化に直面しているのです。

そのような中で私たちの視点は、弱者とりわけ医療上の、健康上の弱者に対して手をさしのべるといふ姿勢を持ち続けることで、そのような視点から、地域だけでなく、日本のさらには世界の動きを我々なりに把握していくことがとても大事なことだと思われまふ。

今年もよろしく申し上げます

平成二十九年一月

理事長 佐藤 雅司



今年、平成29年は酉年だそうです。酉年は、収穫期で「利を得る」とされています。しかし、今年の干支は、唯の酉年ではなくて「丁酉(ひのととり)」の年になるとのことです。この年は、「相剋(そうこく)」と言われる、世の中が非常に不安定になるといわれています。

わが国では、団塊の世代が75歳以上になる2025年(平成37年)には、全国的に医療需要・介護需要がピークになると見込まれています。今後人口減少に加えて、人口構造が変遷していく中で、「治す医療」から「治し、支える医療」へ質的転換を求められることとなりまふ。このような経緯から、将来に向けてどのような医療提供体制を構築して行くかが大きな課題となつています。平成26年6月に成立した「医療介護総合確保推進法」を受けて、「将来の目指すべき医療機能別提供体制」を示す「地域医療構想」を各都道府県において策定することされました。そして、和歌山県では平成28年5月地域医療構想の二次医療圏ごとの数値目標が決定されました。橋本医療圏での高度急性期病床は65床、急性期病床は267床、回復期病床は327床、慢性期病床は78床となっています。この数値が妥当なものなのかどうかはまだわかりませんが、今後、将来のあるべき姿の実現に向けて「協議の場」(地域医療構想調整会議)で検討を重ねていくことに



なつていきます。さらに、和歌山県では独自の取り組みとして、在宅医療を推進するとともに、地域医療構想実現に向けて病床機能の分化を推進するために、「地域密着型協力病院」の指定を進め、当院も早々と指定を受けることになってまふ。その役割は、回復期機能病床等を保有し、病棟に退院支援看護師を配置していること、在宅療養患者の入院(レスパイト入院含む)・かかりつけ医の要請に応じて往診等に対応できることとなつていますが、これらはすでに当院では行われていることでもあります。

新しい激動の時代の幕開けではありますが、今ある当院の理念は、2025年の医療・介護の需要に適うものであり、施設としての方向性は間違っていないと確信できます。必要な患者さんに、必要な医療・介護を提供できるように、現実を見据えながら努力することが、地域の人々に信頼される施設として成長していくことになるに違いありません。

平成二十九年一月

院長 西口 孝

教えて！認定看護師さん



地域で暮らす方々へ 救急看護の充実を目指して

救急看護認定看護師 林 ミユキ

みなさま はじめまして。医療法人 南労会 紀和病院の救急外来・手術室で勤務しております、救急看護認定看護師の林ミユキです。私は、当法人のサポートを受けて約7ヶ月間指定された教育機関において救急看護を学び、平成28年7月に日本看護協会が実施する認定審査に合格しました。認定看護師は、看護の現場において「実践」「指導」「相談」の3つの役割を果たすことにより、院内外の看護ケアの広がりや質の向上を目指しています。私が担当しているのは、その名の通り救急看護です。



救急外来・手術室の看護師と共に

救急領域での看護活動紹介

救急外来では、限られた情報から限られた時間内に迅速な判断をしなければなりません。その判断に基づき、救急処置を行います。このときに、じっくりまんべんなく情報収集したり、時間をかけて観察をしたり、のんびり考えていると、助かる命も救えなくなってしまいます。そのため、救急看護師には、短時間で適切な情報収集能力と迅速な判断能力が求められます。具体的な活動は、救急患者の第一印象(重症度)を把握し、呼吸回数・体温、脈拍、血圧の測定・症状の観察をふまえてから焦点化することが大切となります。救急時、急に起こった症状は、症状として見えているところは観察しやすいですが、見えている症状だけに気を取られていると、身体内部で起きている重要なサインを見逃してしまうことがあります。見えている症状だけでなく、症状に関連する別の身体情報を探ることが重要です。救急患者さんと同様にご家族も不安になっていることを理解し関わるのが大切だと思っています。

認定看護活動について

病院内での活動は、看護師対象の学習会や看護実践・指導を行っています。そのほかにも、地域の会社や老人ホームなどから依頼を受け、依頼先へ出向き、応急手当の仕方やBLS(一次救命処置)の指導を行うことも救急看護認定看護師としての活動です。看護スタッフの教育や地域の方々へどうすれば理解しやすいか、どうすれば実践に結び付けることができるのかを考えながら指導を行っています。

今後の目標

課題はたくさんありますが、認定看護師は一人では何もできません。まずは、看護部の看護力が向上するように学習会を実施すること、そして、現場のニーズや患者さん、家族のニーズに合った看護実践を行い、看護スタッフと共に少しずつ力をつけ、一人の人間として成長して行きたいと思っています。



救急看護ってどんな看護？

救急医療の対象となる患者さんは、さまざまな状況下で発生します。発症は、家庭や職場、学校、公共施設など日常生活の場がほとんどを占め、災害時や一般病棟の院内急変、集中治療(ICU/HCU)、手術室といった場所でも救急患者は発生します。そのため、救急看護には多角的な物の見方と柔軟な思考や応用力、新たな視点を見出す探求心などが求められます。救急患者さんは下記の特徴があることを十分理解し、看護にあたっています。

救急患者の特徴

- 1、さまざまな状況で突発的または急激に発生する。
- 2、緊急性が高いことが多く重症度は、軽症から重症まで範囲が広い。
- 3、症状は一時的なものもあれば、断続的・継続的なものもある。
- 4、発症原因は、疾患や外傷を問わずさまざまである。
- 5、情報が限られている。



社会福祉法人 紀和福祉会 介護老人福祉施設 やまぼうし
一次救命処置指導風景



一致団結！エイエイオー



第5回乳がんいのちプロジェクト市民公開講座 「いのち inochi 大切な人の『想い』とともに…」



10月29日(土)産業文化会館アザレアで、妻を乳がんで亡くした読売テレビアナウンサー 清水健さんが講演されました。約1200人の方がお越し下さり、ホールに入りきれず、ロビーのモニターテレビで講演を映し出すこととなりました。たくさんのご来場ありがとうございました。

清水さんは「家族3人で生きよう!」という決断をしたこと、奥さんが亡くなり自分にできることがもつとなかったか後悔したこと、今の自分を見てどのように語りかけているだろうかなどまだ乗り越えきれない辛い想いを切実に私たちに話してくれました。そして「それでも頑張っって前を向いていきたい。なんとか前を向くんだ」と、今の自分に出来ること この辛い気持ちをみなさんに伝え、がんを患う人たちを支える側で活動していきたいと自身の決意を述べられました。

清水さんの講演を通じて「もし大切な人が乳がんでなくなったら…」。「もし自分が乳がんでなくなったら大切な人の悲しみは…」色々な想いを一人ひとり考えられたことと思います。

まだ検診を受けたことがない方も、一歩踏み出して下さい!あなたと大切な人たちのために。

緩和ケア病棟見学会

「今日を素晴らしく生きる」

2016年10月30日・31日・11月1日開催

当院では緩和ケアを広く知ってもらえるよう「今日を素晴らしく生きる」をテーマにポスター掲示やリーフレットを配布しました。見学会当日にはミニ講演会&緩和ケア相談、緩和ケア病棟の紹介や病棟見学会を行い、患者さん、ご家族、地域の方等、3日間のイベントで100名以上の参加がありました。

「緩和ケアのイメージが変わった」、「見学できて何かほっとした気持ちになった」などのご意見をいただきました。緩和ケアという言葉を全く聞いたことがないという方もおられ、少しでも知っていただくことができました。これからも、「緩和ケア」の普及啓発活動を継続していきたいです。





新任医師の紹介

よしだ やすひろ
吉田 康弘 医師



所属診療科：内科

【略歴】滋賀医科大学（平成6年卒）

平成28年10月に赴任しました。医療療養病棟と内科系救急外来を担当しています。当院の療養病棟は、褥瘡回診や栄養サポートチームや専門リハビリスタッフによるリハビリなどのチーム医療を得ながら、患者さんやご家族にとって温かいゆとりのある病棟を目指しています。よろしくお願いたします。



医療安全推進週間

平成28年11月22日～28日

当院では、患者さんと医療従事者が「お互いが大切な安全パートナー」として、安全な医療を受けていただくことをテーマに取り組んでおります。



地域連携室便り

医療法人萩会 萩原内科・小児科

地域の架け橋

〈当院の紹介〉

当院は昭和47年に亡父が九度山町で開院し、地域の皆様と共に歩んでまいりました。私は平成15年地元に戻り父の跡を継ぎ開業いたしましたので今年で14年目に入ります。

九度山町とその近隣の「お子様からお年寄りのかかりつけ医」として日々診療をしています。永年診療していると高齢や病気のため来院困難となってくる患者さまもいて、午前診と午後診の間に往診で対応しています。さらに自宅での生活が困難となる場合は地域の地域包括支援センターやケアマネージャーと連携して訪問看護、ヘルパー利用や施設への入居をお手伝いしています。

また平成11年から九度山町河根に特別養護老人ホーム友愛苑、平成22年から高野口町小田にサービスキ付き高齢者向け住宅スマイルライフ萩を開苑して「地域の医療と介護」に微力ながら努めています。

〈紀和病院との連携・望むこと〉

日々の診療や往診、施設入居者を診ている中で検査や入院治療の必要のある場合や癌の終末期患者が緩和ケアでの入院を必要とする場合が多々あります。

このような時、紀和病院へ時間外で依頼をすることが多くご迷惑ばかりおかけしていると思いますが、緊急入院の際も快く対応していただき紀和病院様には深く感謝いたしております。

またリハビリテーションにも力を入れて下さっているため、高齢者が入院しても歩行不能で退院することがなく安心しております。

最後に望むことを忌憚なく言わせてもらいますと、小児科を作っていただきたいです。少子高齢化が進んでおり厳しい状況ですが、小児医療やリハビリができればありがたいです。今後も紀北エリアの基幹病院としてご発展、ご活躍していくことを望んでおります。

*本文は理事長 萩原 正史 先生よりご寄稿いただきました。



医療法人萩会 萩原内科・小児科

TEL 0736-54-3309 〒648-0101 伊都郡九度山町九度山 1168-2

理事長 萩原 正史 先生

